

# 令和4年度病害虫発生予察特殊報 第5号

令和5年2月3日  
岐 阜 県

- 1 作物名 フィロデンドロン
- 2 病害虫名 モトジロアザミウマ *Echinothrips americanus* Morgan
- 3 発生地域 西濃地域

## 4 発生状況

令和4年11月に西濃地域の花き施設ほ場（1ほ場）において、サトイモ科観葉植物であるフィロデンドロンに、葉の周辺部が黄化した症状が観察され、暗褐色のアザミウマ類の寄生していることが確認された（写真1～2）。本虫を採集し、農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼した結果、モトジロアザミウマと同定された。

モトジロアザミウマによる農作物への被害は、これまでに、東京都、愛知県、高知県、鹿児島県、香川県、栃木県、宮崎県、福島県、大分県の1都8県において確認されている。

被害作物は、インゲンマメ、シソ、ミョウガなどの野菜類のほか、ディーフェンバキア、シンゴニウムなどのサトイモ科の観葉植物や、ハイビスカス、ポインセチアなどの花き類でも報告がある。本種による農作物の被害は本県では初確認である。

## 5 形態及び生態

モトジロアザミウマは、北アメリカ原産の侵入害虫であり、古くから侵入を受けたヨーロッパでは広く分布し、中国へも侵入している。国内では1999年に東京都（小笠原諸島）で最初に確認され、その後各地でも確認されている。体色は暗褐色で、前翅の基部および中央部が灰白色であるため、体色に比して白く目立つ（写真3）。また、頭部、胸部および腹部の各節間は赤味を帯びる。体長は雌成虫が約1.3mm、雄成虫が約1.2mmである。1齢幼虫は体長約0.5mmで、2齢幼虫は体長0.7～1.2mmで体色は黄色である（写真4）。2齢幼虫の後、蛹を経て成虫となる。

広範囲の植物に寄生し、野菜では、キュウリ、メロン、シソ、ナス、トマト、ピーマン、ミョウガなど、花きでは、ポインセチア、ハイビスカス、インパチェンス、バラなどを食害する。食害を受けると葉の艶がなくなり、かすり状となることや、葉辺縁部が黄化する場合がある。

## 6 防除対策

- (1) 発生が認められた場合には、花き類・観葉植物のアザミウマ類に適用がある薬剤

を用いて、株全体に薬液散布する。

- (2) 栽培施設の開口部に防虫ネットを張り、施設内への侵入を防止する。
- (3) 広食性の害虫であることから、雑草に寄生する可能性もあるため、ほ場周辺の除草を徹底する。

## 7 引用文献

- ・伊藤啓司・大野 徹 (2003) 植物防疫 57: 223-225



写真1 被害を受けたフィロデンドロン苗  
(矢印：周辺部が黄化した被害葉)



写真2 葉上に寄生している実際の様子  
(矢印モトジロアザミウマ成虫)

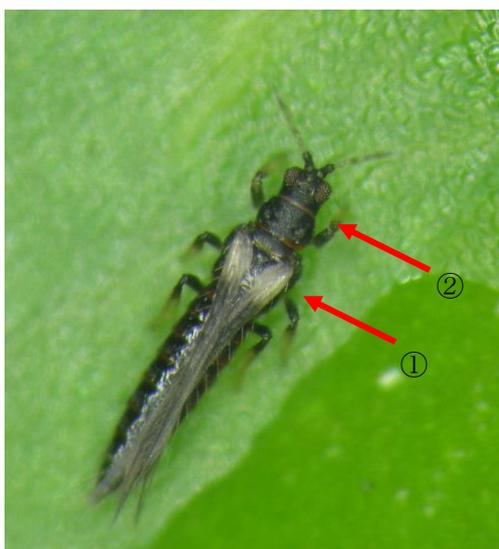


写真3 モトジロアザミウマ成虫  
(矢印1：前翅の付け根の灰白色)  
(矢印2：頭部と胸部の節間の赤み)



写真4 モトジロアザミウマ2齢幼虫